計画達成後の生活シーン

計画達成後の生活シーンは、この計画を着実に実行し、計画に盛り込まれた内容が達成されている将来の様子を７つの生活シーンをとおしてわかりやすく記述したものです。なお、登場する人物等の設定は架空のものです。

１．病院では・・・

Ａさん（30代・男性）
奥さんの出産に立ち会う。家を新築したばかり。
父親は隣に住んでおり自宅で療養中

Ａさんは奥さんの出産に立ち会うため、自宅から近い病院に来ています。以前は地域に産科のある病院がなく、遠くまで通わなければいけなかったのですが、医師定着の取り組みにより、各地域に産科を含めて必要な専門の医師が赴任するようになりました。看護師の県内就職率の向上などにより、看護体制の充実も図られています。

Ａさん夫妻はなかなか子どもに恵まれず、不妊治療を受けてやっと授かった赤ちゃんです。県から治療費の補助を受けながら治療を続けてきました。少しばかり早産になり心配しましたが、ドクターヘリが配備され道路の整備も進んだことから、いざという時にはヘリコプターや救急車で周産期医療の充実した県立病院まで搬送してもらえるので、安心して地元の病院で出産することを選ぶことができました。

小児科も充実してきました。いつでも、重症患者に対応する医療体制ができていて、必要な時にすぐに診てもらえる仕組みは、これから子育てをしていくＡさんにとっても心強いものです。子ども医療費の助成も充実し、安心して子どもを育てることができそうです。

そのようなことを考えていると、分娩室の中から元気な赤ちゃんの泣き声が聞こえてきました。

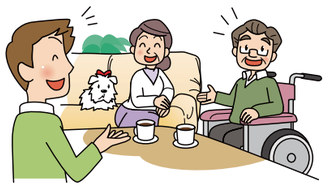
「よし、これから頑張るぞ！」

新しい家族ができ、親としての責任感を感じながら、Ａさんは小さくガッツポーズをしました。

喜びをかみしめながら、Ａさんは自宅に向かいました。最近建てた自宅は、燃料電池やスマートメーターなど、環境への気配りも徹底しています。スマートメーターの設置により家電製品ごとの使用電力の状況も把握でき、大いに節電に役立っています。

「おかえり。無事に生まれたそうで、安心したよ」

自宅で待っていたＡさんのお父さんが出迎えました。Ａさんの隣に住むお父さんは、先月まで入院していました。退院はしたものの、後遺症で重い麻痺が残ったため、病院から紹介してもらった診療所で治療を続けながら、介護サービスを利用してリハビリに励んでいます。車いすで生活できるように自宅の改修を行い、ホームヘルプや配食サービスなども利用して、希望どおりに住み慣れた地域での生活を続けています。病状や生活状況に変化があれば、医療機関や介護サービス事業所など関係機関が連携して、高齢者を支援する地域包括ケアの仕組みができているので安心です。Ａさんのお父さんは、これからは、孫の面倒をみると張り切っています。

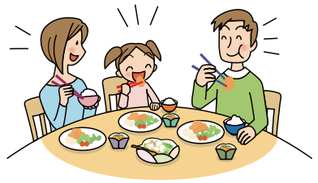


２．ショッピングセンターでは・・・

Ｂさん（30代・女性）
幼稚園児の子ども（女の子）がいる。子育てサークルに参加
子どもと一緒に買い物をしている様子

Ｂさん親子は夕食の買い物をするためショッピングセンターに来ました。入口に近い駐車場には「大分あったか・はーと駐車場」と表示され、車いすを使用した方が利用していました。ここには大分産の肉や魚、野菜が豊富に揃っていて、多くのお客さんで賑わっています。「Ｔｈｅ・おおいた」ブランドの商品は、国内はもとより、海外でも高い評価を得ていて大人気です。商品の一つ一つにはＩＣチップのタグが貼ってあり、携帯端末で読み込むと、生産者や加工者の情報が見えるようになっています。

「家族みんなで♪　テーブル囲んで・・・♪」



Ｂさんの子どもが店内に流れている「おおいたＷＡ(○)ＳＨＯＫＵ運動」のテーマソングに合わせて歌いだしました。食事作法や栄養バランスを考えた食事、家族そろって輪になって食べようという県民運動が広まっていて、Ｂさんが入っている子育てサークルでも積極的に取り組んでいます。

地域子育て拠点の子育てサークルは、小さな子どもを持つお母さんが集まり、いろいろな情報交換を行っています。先日も、昨年の５歳児健診で発達障がいの傾向を指摘されたお子さんのお母さんから話を聞きました。「専門家のサポートを受けることができ、また、小学校に入学する際にもスムーズに障がいの情報が伝わり、先生たちもきちんと対応してくれたので、早く分かって良かった」と言っていました。

Ｂさんの子どもも来年は５歳になります。通っている幼稚園では隣の保育所と連携して、長時間でも保育を受けられるので急用ができたときでもたくさんのお友達と仲良く遊んでいられます。大きな集団の中で話したり、教えあううちに身の回りにある文字や記号にも強い興味を持つようになりました。小学生のお姉ちゃんのまねをして字を読んでみせることもあります。

「わたし、この字読めるよ。えーと、おすすめのろろろだって」

Ｂさんは笑いながら、今日の「おすすめの品」になっている「かぼすブリ」のフィレをカゴに入れました。ＩＣタグから読み取った生産者情報によると、このブリを作っているのは養殖漁業をしている漁師さん達で、自分たちで加工、流通までの全てを行っており、活きの良さが売り物となっています。

買い物を済ませ精算のためレジに向かうと、車いすの店員さんが忙しく働いています。このお店のレジ係はみんな車いす利用者が担当になっています。Ｂさんの子どもが商品の入った買い物カゴをゲートにくぐらせると、レジがＩＣチップを自動的に読み込んで購入金額が表示されました。

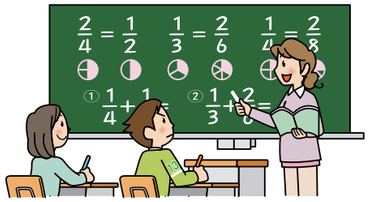
「お嬢ちゃん、お買い物のお手伝い、えらいね」

レジ係の店員さんに声をかけられて、嬉しそうにマイバックに買った商品を詰めました。

計画達成後の生活シーン

３．小学校では・・・

Ｃくん（小学５年生・男の子）
算数が苦手で給食は大好き。小学２年生の弟がいる。
小学校での授業・給食の風景や放課後の出来事



教室を覗いてみると、Ｃくんが真剣な顔をして分数の問題に取り組んでいます。苦手な算数の授業ですが、少人数のクラスに分かれていて、教えてくれる先生も２人いるため、分からないことはすぐに教えてもらえます。小学校低学年での30人学級や高学年になってからの習熟度に応じたきめ細かな学習により、九州トップレベルの学力を実現しています。体力向上も成果が現れてきました。体育専科教員の工夫した授業により、運動やスポーツの苦手な子どもでも身体を動かすことの楽しさを感じられるようになり、校庭で遊ぶ子どもも増えてきました。さらに、一人ひとりの子どもに先生の目が行き届くようになってからは、いじめや不登校の子どももずいぶんと減ってきました。

お昼になり、大好きな給食の時間がやってきました。今日のおかずはだんご汁です。おじいちゃんもおばあちゃんも、そのまたおじいちゃんやおばあちゃんも大好きだったと教えてもらったことがあります。地域の食べ物を通じてみんなとつながっていると感じます。先生は「大分の料理には大分の野菜がぴったりだ。」と言います。「地産地消」と言うそうです。

午後の授業は外国語活動です。ＡＰＵ（立命館アジア太平洋大学）の留学生が学校に来てくれて、世界各地の遊びを一緒に体験します。授業は英語で行われ、Ｃくんも片言の英語で身振り手振りを交えて積極的に遊びに加わっています。外国語活動の時間は、子どもたちや留学生たちの間に笑い声が絶えません。笑顔は世界共通の言語で、すぐに打ち解け親しくなります。

Ｃくんの弟は学校が終わると、そのまま校内にある放課後児童クラブに移動します。両親が共働きのため、６時まではここで勉強したり友だちと遊びます。週に一度、近所のおじいちゃん、おばあちゃんがやって来て、昔の遊びなどを教えてくれるので、コマ回しやメンコ、おはじきなども覚えました。

弟が放課後児童クラブにいる間、Ｃくんは総合型地域スポーツクラブに参加し、サッカー教室や陸上教室で元気に活動しています。Ｃくんの夢はサッカー選手になることで、来月にはＪ１で活躍しているトリニータの選手が教えに来てくれる予定になっていて、今からとても楽しみにしています。

６時になって、弟と一緒に家に帰っていると、近所のおじさんやおばさんが「おかえり」と声をかけてくれます。地域の人たちが学校の周りや人通りが少ない道などをいつもパトロールしてくれているのです。

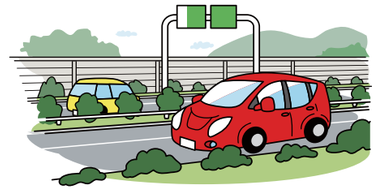
「ただいま！」

声をかけられる度に、大きな声で返事をするのはちょっと恥ずかしいのですが、なぜだか温かい気持ちになるＣくんでした。

４．会社では・・・

Ｄさん（20代後半・男性）
東京からＵターン。近々結婚予定。スポーツ観戦が趣味
就職した医療機器関連企業での出来事

Ｄさんは、東九州メディカルバレー構想により大分県に進出してきた医療機器メーカーに勤めています。一度は東京の会社に就職したのですが、豊かな自然に恵まれたふるさとで暮らしたいと考え、大分県にＵターンしてきました。県内では、最先端の技術を持つ多くの企業が進出し産業集積が進んでおり、こうした企業との連携を深めた地元企業の業績も向上しています。Ｄさんの同級生の多くも県内に就職し、それぞれが夢をもって仕事に取り組んでいます。



午前中は宮崎県にある医療機器関係の取引先へ出張しました。以前は移動するだけで大変でしたが、東九州自動車道が完成したため、午後には帰ってくることができます。出張に使ったのは電気自動車。途中、休憩で立ち寄ったサービスエリアには、自然エネルギーを活用した急速充電器があり、追加して充電することができました。きれいに間伐された森林や、風光明媚なリアス式の日豊海岸を遠くに望みながら、快適なドライブが楽しめました。

会社に戻ってから海外の取引先に書類をデータで送りました。高速ブロードバンド環境が整っているため、大容量のデータ送信もあっという間で、その後、東京の取引先と地場中小企業の担当者とＤさんの３者でテレビ会議で打ち合わせをして、今日の仕事は終わりです。

今日は、先輩のＨさんと一緒にサッカーの試合へ応援に行くことになっています。彼はすでに結婚して子どもがおり、自他ともに認めるイクメンです。今年の初めに育休を取るなど、子育てや家事に積極的に参加しています。社内では彼のような社員が多数いて、ワーク・ライフ・バランスがしっかり浸透しています。もうすぐ結婚する予定のＤさんも結婚して子どもができたら、子育てに積極的に関わりたい思っています。

明日は、新婚旅行に必要なパスポートの申請をする予定です。市町村への権限移譲が進み、パスポートの申請・交付は市役所の支所でもできるようになりました。

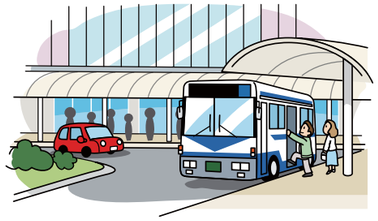
「Ｈさん、そろそろサッカーを観に行きましょう」

いつもは会社から直通バスに乗ってパーク・アンド・ライドで車を止めている駐車場まで行くのですが、今日は市内中心部から出ているシャトルバスで試合のある大分スポーツ公園に向かいました。

計画達成後の生活シーン

５．大分駅では・・・

Ｅさん（40代・男性）
奥さんと子どもが２人。PTA活動、地域の活動に積極的
家族で駅ビルから県立美術館へいく途中



Ｅさん家族は、県立美術館に行くため、みんなで電車に乗って新しくできた大分駅ビルに着きました。高架化によって周辺の渋滞は解消されるとともに、バスターミナルなどが整備された大分駅は交通の拠点として利用され、多くの人でにぎわっています。

また、海外での温泉ブームにより、多くの外国人観光客も大分県を訪れています。大分の自然、食、おもてなしによる「癒し」のコンセプトが好評でリピーターも増えてきました。

「商店街もずいぶんにぎやかになってきたね」

途中の商店街は、駅ビルと美術館を結ぶ動線となり、多くの人が行き来しています。お店には県内の物産品やおいしい食べ物がすべて揃っていて、県外からの観光客にも好評です。前は空き店舗であった場所を利用した県内の大学生や若手アーティストの作品展や様々なイベントも通る人の目を楽しませてくれます。

今日は、県民文化祭の行事がオアシスひろば21や県立美術館で開催されており、美術館とオアシスひろば21のあいだの道は歩行者天国になっています。フリーマーケットが多数出店し、Ｂ級グルメで有名になった郷土料理のお店もあります。

隣接するオアシスひろば21も含め、美術館周辺には多くの人が集まり、芸術文化を楽しめるにぎわいの場となっています。「県民の応接間」とも言える美術館では、国内外の優れた美術作品や大分ゆかりの芸術家の作品が、いつでも鑑賞できますし、県内の各地域で巡回作品展を行っているため、県民が芸術に触れる機会がとても多くなりました。「県民とともに成長する」県立美術館は、毎年、新たな発見と感動を与えてくれています。

Ｅさんは子どもの学校の父親の集まり「おやじの会」に入っていて、その仲間と一緒に、地域に昔から伝わる神楽の保存活動に取り組んでいます。今日はその活動の一環として、県民文化祭の舞台で神楽をお披露目することになっているのです。次の代へ引き継ぐため、地域の子どもたちにも教えています。ボランティア活動にも積極的で、Ｆさんが参加している地域づくりの団体は、行政に頼らず自主的にやっていく雰囲気に満ちていて、新しい地域づくりの主体として頑張っています。

「じゃあ、お父さん神楽を頑張って。またあとでね」

家族のみんなはＥさんを残して、美術館で開催している有名な画家の展示会に行ってしまいました。「神楽を観に来てくれるのかな・・・」とＥさんはちょっと心配になってきました。

６．地元企業では・・・

Ｆさん（50代・女性）
製造業の会社を経営。夫の実家は小規模集落地域にある。
会社の清掃活動の様子。週末は夫の実家に帰っている。

Ｆさんは自分が経営している部品製造のＰ社の役員室で新聞を広げています。県内の景気は好調で、技術革新や新しい取引先の開拓によって元気な会社が増えています。Ｐ社でも何か新しいことにチャレンジしたいと考えています。

「みんな、朝の清掃活動に行くわよ」

Ｐ社では、週の初めと終わりの始業前に会社の周りのゴミ拾いを行っています。初めはＦさん達だけでしたが、今では、この地区のほとんどの会社が参加するようになりました。いつもきれいにしていると、捨てられるゴミの量も少なくなってきた気がします。ごみゼロ行動は、県内のいたるところで行われていて、環境への気配りが県民に浸透してきたようです。

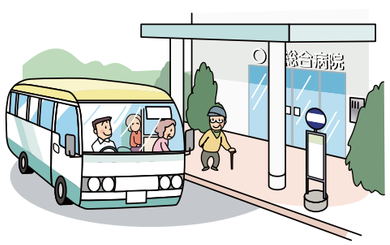
「Ｆさん、この前の話を考えておいてくださいね」

ゴミ拾いをしていた隣の会社の社長が声をかけてきました。普及してきた温泉熱発電システムの新しい製品開発について地場メーカーから提案されており、これを機にエネルギー関連産業へ一緒に参入しようという話です。それぞれの強みを生かして共同での部品開発を考えていて、前向きに検討しているところです。

技術開発や新たな設備の導入には資金が必要です。新しいチャレンジには県から補助金も出るようですし、前に利用したことのある県の融資制度の活用も検討しています。技術的な面では、いつも利用している産業科学技術センターに新たな参入に必要なノウハウがありますし、経営面では、産業創造機構や商工会、商工会議所の経営指導員も親身になって相談に乗ってくれます。いろいろと検討は必要ですが、多くのバックアップが期待できそうです。

「明日は実家に帰るから、必要なものを買っとかないとね」

Ｆさん夫婦は、週末は家族そろって山間部の集落にある実家で過ごし、両親の面倒を見ています。二人とも高齢になったので車の運転をしていません。山間部の小規模集落に住んでいるため、車がないのは少し不便ですが、平日は、市営のコミュニティバスを利用して通院や地域の行事に参加しています。食料品や日常用品の買い物は配達サービスや移動販売車などを利用できるため前よりも便利になったと言っています。地域と行政が一体となって取り組んできた有害鳥獣対策が功を奏し、イノシシやシカの被害もずいぶん減ってきました。

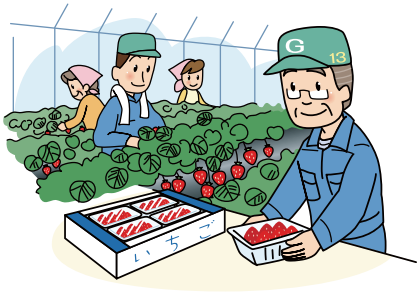


住みやすくなったこの地域に、行く行くは夫とともに移り住み、地域の活性化に取り組みたいと思っています。

計画達成後の生活シーン

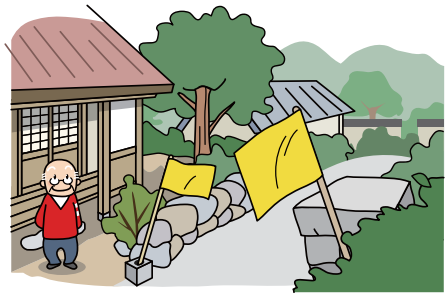
7．地域の公民館では・・・

Gさん（60代・男性）
農業は後継者に任せている。地区のまとめ役。ジオガイド
地区の公民館での様子。地区では毎年避難訓練を行っている。



Gさんは、農作物の出荷を手伝ったあと、地域の集まりに参加するため公民館に向かっています。家業の農業はGさんが若いときに企業体を設立し、イチゴの生産に取り組んできました。「The･おおいたブランド」の確立に向けた商品（もの）づくりによって、市場ニーズに沿った周年・安定供給の体制ができあがり、「もうかる農業」を実感できるようになっています。今では、自分の息子も含め、若い人たちに企業体の運営を任せていますが、健康維持のため、元気に身体が動くうちは、お手伝いをしたいと思っています。

「Ｉさん、もう、大丈夫かえ」



公民館に着くと久しぶりに見る顔があったので声をかけました。友人のＩさんは、半年ほど前に自宅で倒れて県立病院に入院していたからです。一人暮らしのＩさんですが、黄色い旗運動のおかげで近所の人が異変に気づき、すぐに救急車で運ばれました。冷蔵庫に用意してあった救急バトンの情報が役にたち、後遺症も残らずに退院することができました。命が助かったのは黄色い旗と救急バトンのおかげだと笑っています。

今日の集まりは、来週行われる避難訓練についてです。参加者はお年寄りも多いのですが、農業、漁業の担い手や商店街の若い後継者、都会から移住した若手ＩＴクリエイターもいます。集まりには、県から防災対策事業の委託を受けたＮＰＯ法人のスタッフが一緒に参加しています。東日本大震災のあと、県では地域防災計画の見直しを行い、それに沿って各地域で全員が参加して避難訓練を重ねています。海にも山にも近いこの地域では、津波が発生した際は山の中腹にある避難所へ行くことになっています。避難した際に必要な備蓄物資の準備や避難所の運営などもＮＰＯのスタッフから助言を受けながら、みんな真剣に取り組んでいます。避難所は、停電時にも困らないよう、屋根に設置されている太陽光発電と近くの小水力発電所の電力によるバックアップシステムが整備されています。

Gさんも地区の世話役として大忙しです。避難訓練では一人では避難できない方や一人暮らしのお年寄りなどをどうしたら安全に避難させられるか、地区のみんなで考え、行動に移せるようにしています。

「ツーリズムで民泊しているお客さんの避難も考えないと」

この地域では海と山を生かして、グリーンツーリズムとブルーツーリズムのコラボに取り組んでいます。体験型の旅行にくる観光客にも、いろんな選択肢が用意されているので好評です。近くには、最近認定されたジオパークもあります。ジオサイトを一望できる施設が整備され人気を集めています。Gさんも休日にはジオサイトを紹介する観光ガイドをしています。自分が子どもの頃に遊んでいた場所が人気の観光地になり、びっくりしているGさんです。